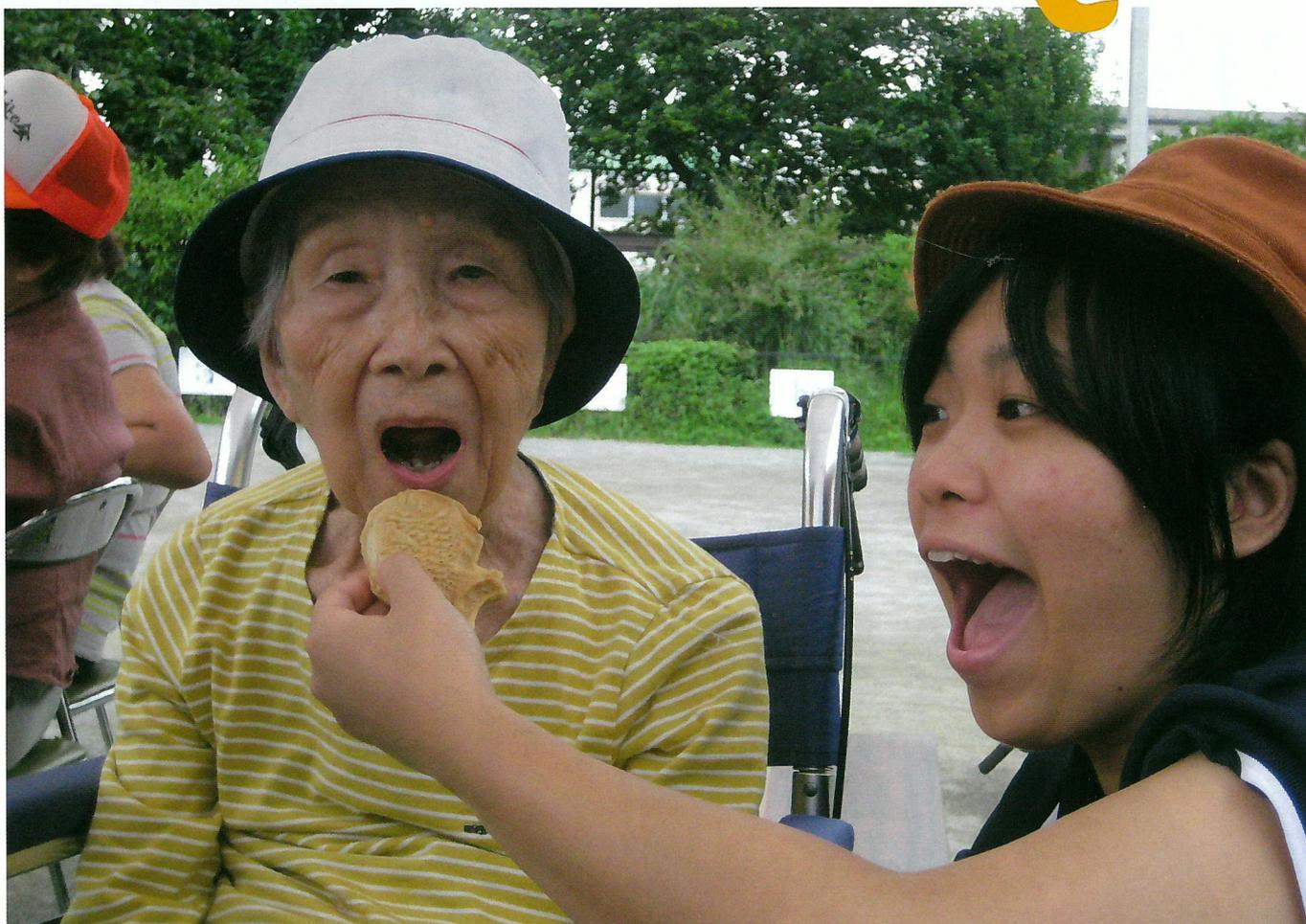


ふれんど

2017
第37号

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】



特集

介護・福祉の仕事

その魅力とやりがい

●トピックス

武蔵野市障害者福祉センターの
指定管理者となりました

●食を通じて地域とつながる

食を通じた地域貢献

●新コーナー

●たて糸よこ糸

ワーカーズどんぐり

●ワンポイントアドバイス

使いやすい箸選び



特集



介護・福祉の仕事

その魅力とやりがい

〜対人サービスだからこそその喜びを求めて〜

「ゆとりえ特養ホーム」では、人員確保の問題がここ数年続いています。介護職員の不足の現状と、介護の質を落とさずにその不足をどう補っていくのかという課題、そして、ともに共感するというこの仕事の魅力を実感できる職場づくりに、取り組んでいる状況をご紹介します。

特別養護老人ホームの現場では

東京都社会福祉協議会・高齢者福祉施設協議会が、5月に実施した都内の特養ホームにおける介護職員充足状況に関する緊急実態調査では、必要とする介護職員の配置人員を満たしていない施設の割合が62・1%になることがわかりました。一時的な人員不足の解消として、派遣職員の雇用や職員の超過勤務での対応などの回答がそれぞれ6割を超えています。

人員確保の困難はゆとりえ特養ホー

ムでも例外ではありませんが、少しでも質の高いケアを提供しようと業務改善に取り組んでいます。ご利用者に向き合う時間や会話を通しての交流、くつろぎの時間、笑顔とともに共感する機会を生み出す努力が続けています。

私たちの仕事の魅力は

介護の仕事というと、一般的に「きつい」「汚い」「給料安い」の3Kで表



8月 毎年恒例のすいか割りのひとコマです



6月 近所の農園に梅狩りに行きました



7月 ベランダ菜園のキュウリが採れました

現されがちですが、介護職員はご利用者の暮らしを守るやりがいのある仕事です。私たちは、単に身の回りの世話をするのではなく、身体活動・精神活動を活発にして、できる限り充実した人生の喜びを味わい、人間の幸福を目指していくことを支援しています。

中重度の要介護高齢者が生活をする特養ホームでは、明確に自分の意思や希望する生活を伝えることが難しい方もいます。日々の関わりを通して、その人の思いや意欲を引きだすコミュニケーションから支援が始まります。私



もちろん楽しいことばかりではありません。入居して明るく元気になったとしても、年を重ねるうちに段々と体が弱くなっ

たちは、ご利用者本人がしたいことを実現するのを支援するために、残存能力を活かして生活機能の維持・向上に取り組んでいます。

ご利用者から話を聞けず、今の生活で満足しているのかわからず、悩んでしまうこともあります。発語の少ない方が声を出したり、若い頃を思い出して昔の出来事を話し始めたりする機会に遭遇すると、それが私たちの喜びになります。普段の生活でも歯磨きがうまくできたときや上手に立ち上がったとき、一緒に喜びます。

介護人材確保の国の検討状況から

ていく姿を見守り、いつかお別れのとぎがきます。悲しく辛いことではあっても、本人や家族から多くの「ありがとう」をいただき、私たちも「ありがとう」の思いでいっぱいになります。

国は魅力ある職場づくりとして、介護職員が本来の介護業務に専念できるようにすることが必要ではないかと、「介護のシゴト 魅力向上懇談会」や「社会保障審議会 介護保険部会（第59回）」などで検討してきました。専門職が行う仕事と、誰もができる仕事を類型化・細分化して、介護職員が専門性を発揮して個別性の高いケアにあたり、介護職員以外の介護助手等が周辺の業務や作業を行う案も出てきています。下の2つの図は、介護保険部会（第59回）で三重県の介護助手導入モデル事業を示したものです。「介護助手」の業務を3つに分類してクラス分けし、この3分類ごとに新たに人材を募集して取り組んでいます。

介護職員の専門性を発揮する環境を整備するだけでなく、誰にとっても

「介護助手」の業務内容（3分類例）

（三重県老人保健施設協会による分類）

- A クラス** 一定程度の専門的知識・技術・経験を要する比較的高度な業務（認知症の方への対応、見守り、話し相手、趣味活動のお手伝い等）
- B クラス** 短期間の研修で習得可能な専門的知識・技術が必要となる業務（ADLに応じたベッドメイキング、配膳時の注意 等）
- C クラス** マニュアル化・パターン化が容易で、専門的知識・技術がほとんどない方でも行える業務（清掃、片付け、備品の準備 等）



働きやすく、働きがいのある職場環境を目指していかなくてはならないと思います。

出典：社会保障審議会介護保険部会（第59回）提出資料より

東日本大震災での被災 特養ホームへの協力派遣から

福島県南相馬市・特別養護老人ホーム福寿園への介護職員応援協力派遣

大震災から3年が経った2014年6月に3週間程、東京都社会福祉協議会の相双地域等介護職員応援事業で、私たちは南相馬市にある社会福祉法人南相馬福祉会・特別養護老人ホーム福寿園へ赴きました。震災後に福寿園を離れた職員が多く、わずかなベテラン職員と高校を卒業して間もない新人職員が中心となって運営していました。

少ない介護職員で利用者の生活を守っていくためには、業務を細分化し、クラス分けをしなくてはならない現実がそこにはありました。経験の少ない職員には介護助手のような役割を、介護経験がある私たち応援職員には場面を限定しての介護業務を任せることにし、常勤職員らは専門職としてユニットごとにケア全般に専念できるように、業務を分担したシステムが確立されていました。

被災後3年が経ち、まだまだ厳しい状態は続いていましたが、福寿園の職



員はいつも笑顔で、入居者とゆっくり向き合うことを大切にしており、とても穏やかな時間が流れていました。

〈福寿園での職員ごとの実践状況〉

●**経験の少ない職員**（パートなど）
入浴介助（洗身・洗髪）、ユニット内の清掃・見守り・お茶の準備などの周辺業務など。

●**応援職員**
入浴準備と片付け、入浴時の誘導、入浴介助（機械浴・一般浴、着脱含む）、一部の食事介助と排泄介助など。
*半月単位で交代する応援職員は全国から招集されてきており、前任者から後任者への業務詳細の引き継ぎが行われていた。

●**常勤職員**
ユニットごとに中心的存在として介護全般を担い、利用者の変化等の観察、アセスメント・評価、次の対応・対処等に取り組むなど。



「ゆとりえ」の取り組みと 今後の課題

ゆとりえ特養ホームへ入居される方が重度化し医療依存度も高まったことで、ニーズが多様化し、一つひとつの介助に時間がかかったり、複数人での介助になったり、介護にかかる全体的な業務の量が多くなっています。ゆとりえ特養ホームは、地域住民が中心となって活動を支えています。福寿園での介護の周辺業務である洗濯物たため、シーツ交換、入浴後の整容、下膳などをボランティアさんが担っている分、職員は個別性の高いケアに取り組



洗濯たたみのボランティアさん

める環境があります。

これからは職員チーム内で改めて共通の目標や方針に基づいて、同じ方向性を維持し目標に達する体制を整え、そのうえでさらに介護周辺業務を分類化していき、そこを担う人材の確保も求められます。介護の専門職以外の職員も多く抱えることにもなり、職員集団のチームマネジメントを担うリーダーの育成も必要となっていきます。



入浴後の整容ボランティアさん

info.

特別養護老人ホーム
「ゆとりえ」

〒180-0003

吉祥寺南町4-25-5

TEL 042272-0311

→地図
P.8-A



武蔵野市 障害者福祉センターの 指定管理者となりました

平成29年4月1日から武蔵野市障害者福祉センターが、武蔵野市の直営から当法人による指定管理に移行しました。今まで武蔵野市が行ってきたセンターの管理運営やリハビリ総合相談・講演会の開催・施設の貸出・音楽療法、また、武蔵野市民社会福祉協議会が行ってきた講習会も当法人が行うことになりました。事業内容自体に変わ

りはなく、これまで同様のサービスがご利用になれます。

当法人では平成22年からセンター内の「生活リハビリサポートすばる」で、様々な専門職によるリハビリ専門相談や自立訓練（機能訓練）、中途障害者やサイバーサービスを提供しています。中途障害者の方が、地域の中でご本人の希望に沿った生活ができるよう支援してきました。受託を機に嘱託職員だったりリハビリ専門職を正規職員化し、より継続性のある支援が行える体制を整えました。

今後は、これまでのノウハウや経験を活かして、施設管理や講演会、専門相談、リハビリ、通所機能等を一体化し、支援の質とサービスの向上を図っていきます。

（武蔵野市障害福祉センター）

所長 田口 誠



一人ひとりに合わせたメニューで自主トレ中

食を通じて
地域とつながる

食を通じた 地域貢献

やさしい食堂七福

一地図 P.8-B

やさしい食堂七福では、（公財）武蔵野健康づくり事業団が主催・運営する「血圧科学セミナー」や武蔵野市の委託事業「特定保健指導」の支援プログラムの一環として、健康に配慮した特別メニューのお食事を提供いたしました。



セミナーで提供された見た目にもおいしいヘルシーメニュー。主菜の魚料理（サーモンの生のリモンソース（上段）、タラのエスカベッシュ（下段））と野菜ベースの副菜の組み合わせ。



筆者からの「特別メニュー」の説明に耳を傾けるセミナー参加者の皆様

た。「血圧科学セミナー」では塩分を抑えて緑黄色野菜を使用したメニューを、「特定保健指導」では生活習慣病の予防・改善となるようなお食事の提供をすることで、市民の皆様の健康増進にご協力をさせていただいています。セミナーに参加された多くの方に、血圧値の改善や意識の変化が見られたとのこと報告もいただいております。

やさしい食堂七福は、これからも地域の皆様が開かれたレストランであるとともに、様々な形でお役に立つことができるよう、努めてまいります。

（武蔵野福祉作業所）

「やさしい食堂七福」／戸頭 仁

よりよい地域づくりを
めざして活動している
団体等を紹介いたします。

たて糸 よこ糸

特定非営利活動法人
**ワーカーズ
どんぐり**

〒180-0006
武蔵野市中町 3-11-13
シニアビレッジ 101
TEL 0422-53-3940
FAX 0422-53-3930
<http://donguri.jp/>

2001年

任意団体「武蔵野たすけあいワーカーズどんぐり」設立

2003年

特定非営利活動法人ワーカーズどんぐり認証

2004年

利用者送迎添乗（社会福祉法人武蔵野委託・「山びこ」の送迎添乗）

2006年

利用者送迎添乗・食事介助を社会福祉法人武蔵野と締結（ウイズ食事介助スタート）

産前産後ヘルパー事業（武蔵野市委託）

2008年

テンミリオンハウス「くるみの木」開設（武蔵野市委託）

2012年

「どんぐり保育室」開設（緊急待機児童対策事業）

2015年

どんぐり子ども食堂開設（現在は「みかづき子ども食堂」）

「ワーカーズどんぐり」（以下、どんぐり）は、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して2001年に設立された団体です。現在のスタッフは39人、子どもから高齢者まで手助けが必要な人であれば誰にでも寄り添うことを理念に、多岐にわたる事業を展開しています。

法人武蔵野との出会いは、デイセンター山びこ（以下、山びこ）でのボランティアです。理事長の土田さち子さんは、当手を振り返り、「自閉症児の親御さんからケアの依頼がきたのがきっかけです。当時私たちは重度の障害のある方のケアの経験が浅く、



昼食準備の時間にもかかわらず笑顔で迎えてくださる土田さち子さん

勉強のために山びこでボランティアを
していました。しばらくして、安藤

さん（現理事長）から送迎時の添乗をやってみませんかと言われて始めたのが送迎添乗です。顔なじみの関係が

築けるように、同じメンバーが入るなどの工夫をしました。みなさんとふれ合う時間はとても楽しかったですね。」

このような山びこでの活動があったからこそ、現在のどんぐりの障害者福祉サービスの展開につながったと言えます。

どんぐりが目指しているのは、サービス事業の展開ではなく、「地域の中に互いに助け合う輪を広げ、生きがいとやさしさに満ちたまちづくり」です。地域の中にあるメンバーだからこそできる、困ったとき、の助け合いの輪を市内に広げていきたいと言います。時代のニーズに合わせて、「子ども食堂」

や学習支援活動にも取り組んでいます。

また、地域の様々な福祉団体がネットワークを組み、自身の団体では解決できないことは紹介しあい、地域の課題を共有してともに考えていくような関係性を広めていくこともどんぐりの使命だと言います。

インタビュー時に、「ぜひ遊びに来て下さい。山びこのみなさんもっと地域に出て、



テンミリオンハウス「くるみの木」



「くるみの木」で冷たい麦茶をいただきました

存在をアピールしてください」と声をかけていただいたので、早速、お散歩の時間に「くるみの木」へ。ご利用者も土田さんとの再会をとても喜び、「くるみの木」のご利用者とも交流が生まれました。誰もが安心して暮らせる地域をもにつくる仲間として、これからも活動の充実を目指していきたいと思えます。

（デイセンター山びこ 佐藤 直子）

えすぷれっど

ちよっとひといき、心がほっと温まるスタッフの日常をお届け。

寄り添い、自立した生活を支えていく

武蔵野市桜堤ケアハウス

間部 静夏

→地図 P.8-C

私は桜堤ケアハウスの相談員になるまで特別養護老人ホームで介護職員として働いていました。相談員になったものの、支援の仕方の違いに戸惑いました。例えば食事の場面で、特養では職員が配膳しますが、ケアハウスでは入居者それぞれが自分で行います。足腰が弱って食事を運ぶことが難しくなってきた場合、配膳用ワゴンや歩行器の使用を提案するなど、どうしたら



ご利用者と面談を行う筆者

自分で配膳できるのかを考えます。このように、自立した生活を送るための支援を行うケアハウスでは、特養で身に付けた介護技術を使う場面がなく、自分にできることは何なのかと模索する毎日でした。

そんなとき、ふと特養で働いていたときに先輩から教わった「わからないことは入居者の方々が教えてくれる」という言葉を思い出しました。入居者と職員が顔を合わせられる昼食時には、一人ひとりに挨拶し様子をうかがいます。そこでいつもと違うなと感じた方には、後からお話を伺うようにしました。話を聞いてみると、体調不良や人間関係での不安・不満、死への恐怖などを抱えている方が多くいます。こういった漠然とした不安を抱えながら毎日生活している入居者の方に対して、その気持ちに共感し解決策を一緒に探していくことは特養もケアハウスも同じだと気が付きました。介護技術を用いなくても、心理的な面で誰よりも入居者のそばにいる職員でいることが、今の自分にできることだと感じています。

自分らしく

暮らす、を支える

グループホーム・RENGA

岩佐 直子

→地図 P.8-D

私は新年度が苦手で、緊張の糸がゆるむ5月頃によく学校を休んでいた子どもでした。大人になって体は丈夫になりましたが、新しい環境や、大勢の人に馴染むのに時間がかかります。私は通所施設の勤務を経て、現在は身体障害者のグループホームで支援業務を行っています。一年経つてようやく



お誕生日を迎えられたご利用者と

自分の立ち位置がわかってきたところで、まだ慣れないことも多い日々です。ご利用者の皆さんにとって、通所施設での日中活動は「チャレンジ」の場であるのに対し、グループホームで過ごされる時間は「休息」であり、くつろいで過ごすお手伝いができればそれでいい。当初私は漠然とそう考えていました。しかし皆さんにとって住み慣れたご自宅を離れてのグループホームでの生活もまた「チャレンジ」であることに違いないのかもしれないと思うようになりました。私が環境の変化に戸惑う以上の気持ちを感じられることも多いでしょう。そんなお気持ちに寄り添いながら、グループホームが皆さんにとって少しでも安心して自分らしくいられる家となるよう、皆さんのそばで、毎日の暮らしを支えていけたら、と思います。



福々刻々

昨年、我々は経営基本原則を定めました。「地域社会に役立つ」という基本理念を補強しつつ、これからの法人の進むべき方向を示したものです。その一節に「一人ひとりの意欲や自律性を高め、活力ある職場をつくっていきます」とあります。職員自身が成長できる職場であること、そして学びたい希望を語りながら実践につなげていく、そういう職場でありたいと思います。

志賀直哉が「ナイルの水の一滴」で、自分は例えて言えば「ナイルの水の一滴のようなもので、その一滴は後にも前にもこの私だけで」、「何万年経っても再び生まれてはこないのだ」と書いています。確かに人間はナイルの水の一滴ではあるが、しかし唯一無二の存在でもあり、転じて一人ひとりそれぞれ「一隅」であるかもしれないが、その「一隅」は無限に連なるものだと言内整一は言います（「やまと言葉で哲学する」春秋社2012年）。

福祉は小さいことのくり返しでパツとしない仕事だと思ふ人がいるかもしれませんが、確かにどんな現場も「一隅」に過ぎません。現場ではよりよく生きようとするご利用者に向き合い、それを一緒になって叶えようと日々を務めます。喜びや充実があります。それは小さな「一隅」かもしれませんが、それが連続と重なっていけば大きな営みにもなり得るものです。安心感や希望をもって暮らせる社会をつくらうとするのが福祉の仕事の根本ではないかと思えます。

社会福祉法が改正され、この4月から施行されています。全国で施設を経営している社会福祉法人は1万8千あまりですが、改正法は経営組織のあり方の見直しや地域における公益的な取り組みを実施する責務を定めています。また社会福祉法人の活動を可視化することも課題とされました。旧態に甘んじることなく、自らを刷新しながら、この仕事の意義や価値を多くの人と共有していきたいと思えます。

(理事長 安藤真洋)

使いやすい箸選び

ワンポイントアドバイス



「使いやすい箸」とはどのようなものを思い浮かべますか？ また、手の大きさが変化する成長期のお子さんの場合など、箸選びに迷われたことはありませんか？

実は、箸の使いやすさは、長さや素材・加工の有無により変化します。

適切な長さは、親指と人差し指の間を直角に広げて、親指の先から人差し指の先までの距離の1.5倍の長さが良いと言われています。（イラスト：赤い矢印の長さの1.5倍が適切）

素材では、昔ながらの竹や木の素材の箸は、プラスチックに比べて滑りにくい効果があります。また、箸先に溝掘り加工がされているものも、滑り止めの効果があります。

お子さんには、かっこいい・かわいいなどの柄や見た目も大事ですが、使いやすい道具を使うことで活動をスムーズに行うことができ、効率があがったり、動作への負担が減り活動への意欲や満足度の向上にもつながります。

箸でも、同じことが言えますが、お箸に限らず他の道具でも、使いやすい道具を使うことで活動をスムーズに行うことができ、効率があがったり、動作への負担が減り活動への意欲や満足度の向上にもつながります。



地域療育相談室ハビット
作業療法士 久保田 絢女

社会福祉法人武蔵野 案内図

各施設は、児童サービス、障害者サービス、高齢者サービスに色分けしています。また、A~Dは本誌に記事を掲載している施設です。



特養ホームがいつまでも自分らしく暮らせる場所でありつづけるのは、皆さんの力で支えられているからです。介護の周辺業務に携わって頂ける方々が増えると幸いです。(に)

編集後記